

基本計画書

基本計画									
事項	記入欄							備考	
計画の区分	研究科の専攻の設置								
フリガナ設置者	コリツダガクホジシツ カガワガク 国立大学法人 香川大学								
フリガナ大学の名称	カガワガクダクイン 香川大学大学院 (Graduate School, Kagawa University)								
大学本部の位置	香川県高松市幸町1番1号								
大学の目的	世界水準の教育研究活動により、創造的で人間性豊かな専門職業人・研究者を養成し、地域社会をリードするとともに共生社会の実現に貢献する。								
新設学部等の目的	高度専門職業人としての高い倫理感・責任感を有し、深い思考力をもった人間性豊かな心理援助者を育成する。心理援助を実践し、その中で自ら課題を発見・探求・解決できる高度な専門的知識及び医学的素養（医学的視点、精神医学と心身医学の知識と理解、心理援助者としての医療の現状の理解）と実践力、研究能力と共感的能力を備えた心理援助者を育成する。多職種連携、協働の態度・技能とプロフェッショナリズムを持ち、心理援助の実践と研究を通して、グローバルな視野で地域住民の福祉・医療の充実・発展に寄与すると共に、心理援助の発展に貢献する心理援助者を育成する。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学員定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	【基礎となる学部】 医学部 臨床心理学科
	医学系研究科 臨床心理学専攻 (Graduate School of Medicine, Division of Clinical Psychology)	2年	10人	0人	20人	修士 (臨床心理学) (Master of Clinical Psychology)	令和2年4月 第1年次	香川県木田郡三木町 大字池戸1750番地1	
	計		10	0	20				
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)	教育学研究科（修士課程）（専攻の廃止） 学校教育専攻（△12） 教科教育専攻（△18） 学校臨床心理専攻（△7） ※令和2年4月学生募集停止 教育学研究科（専門職学位課程） 高度教職実践専攻（20）（平成31年4月事前伺い）								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
	医学系研究科臨床心理学専攻	講義	演習	実験・実習	計	41単位			
		18科目	5科目	9科目	32科目				
新設区分	学部等の名称		専任教員等					兼任 教員等	
			教授	准教授	講師	助教	計		
	人	人	人	人	人	人	人		
	19 (19)	18 (18)	0 (0)	0 (0)	37 (37)	0 (0)	47 (47)		
教育学研究科 高度教職実践専攻 (専門職学位課程)		6 (6)	4 (4)	1 (1)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	14 (14)	平成31年4月事前伺い
医学系研究科 臨床心理学専攻 (修士課程)		6 (6)	4 (4)	1 (1)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	14 (14)	平成31年3月意見伺い
計		25 (25)	22 (22)	1 (1)	0 (0)	48 (48)	0 (0)	61 (61)	

教 員 組 織 設 の 概 要	既	法学研究科 法学専攻 (修士課程)	18 (19)	5 (6)	0 (0)	0 (0)	23 (25)	0 (0)	0 (0)
		経済学研究科 経済学専攻 (修士課程)	28 (28)	20 (22)	0 (0)	0 (0)	48 (50)	0 (0)	0 (0)
		医学系研究科 看護学専攻 (修士課程)	11 (11)	4 (4)	1 (1)	10 (10)	26 (26)	0 (0)	0 (0)
		医学専攻 (博士課程)	44 (44)	34 (34)	9 (9)	0 (0)	87 (87)	0 (0)	0 (0)
		工学研究科 安全システム建設工学専攻 (博士前期課程・博士後期課程)	9 (9)	3 (3)	4 (4)	2 (2)	18 (18)	0 (0)	0 (0)
		信頼性情報システム工学専攻 (博士前期課程・博士後期課程)	13 (13)	9 (9)	3 (3)	2 (2)	27 (27)	0 (0)	0 (0)
		知能機械システム工学専攻 (博士前期課程・博士後期課程)	11 (11)	4 (4)	3 (3)	1 (1)	19 (19)	0 (0)	0 (0)
		材料創造工学専攻 (博士前期課程・博士後期課程)	11 (11)	2 (2)	2 (2)	1 (1)	16 (16)	0 (0)	0 (0)
		農学研究科 応用生物・希少糖科学専攻 (修士課程)	27 (32)	20 (22)	0 (0)	4 (5)	51 (59)	0 (0)	13 (13)
		地域マネジメント研究科 地域マネジメント専攻 (専門職学位課程)	9 (8)	3 (4)	0 (0)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	0 (0)
		図書館	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)
		四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構	1 (2)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (2)	0 (0)	0 (0)
		国際希少糖研究教育機構	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	6 (6)
		大学教育基盤センター	2 (2)	6 (6)	1 (1)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	0 (0)
		アドミッションセンター	0 (1)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	1 (2)	0 (0)	0 (0)
		学生支援センター	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)
		キャリア支援センター	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
		地域連携・生涯学習センター	1 (1)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	2 (2)	0 (0)	0 (0)
		四国グローバルリーガルセンター	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
		総合生命科学研究センター	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	5 (7)
	微細構造デバイス統合研究センター	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	
	瀬戸内圏研究センター	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	
	総合情報センター	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	3 (4)	
	産学連携・知的財産センター	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	

分	インターナショナルオフィス	1 (1)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	3 (3)	0 (0)	0 (0)
	保健管理センター	1 (1)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	3 (3)	0 (0)	0 (0)
	計	188 (195)	116 (122)	25 (25)	20 (21)	349 (363)	0 (0)	28 (31)
	合計	213 (220)	138 (144)	26 (26)	20 (21)	397 (411)	0 (0)	89 (92)
教員以外の職員の概要	職 種	専 任		兼 任		計		
	事務職員	300人 (304)		342人 (342)		642人 (646)		
	技術職員	876 (876)		335 (335)		1,211 (1,211)		
	図書館専門職員	10 (10)		0 (0)		10 (10)		
	その他の職員	19 (21)		85 (85)		104 (106)		
	計	1,205 (1,211)		762 (762)		1,967 (1,973)		
校地等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用		計		
	校舎敷地	165,625㎡	0㎡	0㎡		165,625㎡		
	運動場用地	80,981㎡	0㎡	0㎡		80,981㎡		
	小 計	246,606㎡	0㎡	0㎡		246,606㎡		
	そ の 他	704,405㎡	0㎡	0㎡		704,405㎡		
	合 計	951,011㎡	0㎡	0㎡		951,011㎡		
校 舎	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用		計			
	170,034㎡ (170,034㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)		170,034㎡ (170,034㎡)			
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設			
	98室	91室	668室	8室 (補助職員 0人)	2室 (補助職員 2人)			
専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数				
	医学系研究科 臨床心理学専攻			11 室				
図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	
	医学系研究科 臨床心理学専攻 (修士課程)	868,430 [268,272] (868,430 [268,272])	25,545 [7,342] (25,545 [7,342])	5,566 [4,180] (5,566 [4,180])	9,120 (9,120)	0 (0)	1,033 (1,033)	
	計	868,430 [268,272] (868,430 [268,272])	25,545 [7,342] (25,545 [7,342])	5,566 [4,180] (5,566 [4,180])	9,120 (9,120)	0 (0)	1,033 (1,033)	
図書館	面積	閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数				
	11,506㎡	966席		1,104,000冊		大学全体 (テニスコート: うち4面は附属学 校、3面は学生寄 宿舎に設置)		
体育館	面積	体育館以外のスポーツ施設の概要						
	5,577㎡	野 球 場 1 面	テニスコート 21 面					
経費の見積り及び維持方法の概要	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次
	経費の見積り	教員1人当たり研究費等	—	—	—	—	—	—
		共同研究費等	—	—	—	—	—	—
		図書購入費	—	—	—	—	—	—
		設備購入費	—	—	—	—	—	—
	学生1人当たり納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
— 千円		— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円		
学生納付金以外の維持方法の概要		—						

	大 学 の 名 称		香川大学						所 在 地	
	学 部 等 の 名 称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度		
		年	人	年次人	人		倍			
既 設	教育学部						1.03			
	学校教育教員養成課程	4	160	—	640	学士(教育学)	1.03	平成15年度	香川県高松市幸町1番1号	平成30年より学生募集停止
	人間発達環境課程	4	—	—	—	学士(教養学)	—	平成15年度		
	法学部 (昼夜開講制)							1.04		
	法学科(昼)	4	150	3年次10	620	学士(法学)	1.08	平成15年度	香川県高松市幸町2番1号	上段は昼間コース、下段は夜間主コース
	法学科(夜)		10	—	40		0.55	平成15年度		
	経済学部 (昼夜開講制)							1.02		
	経済学科(昼)	4	240	3年次20	480	学士(経済学)	1.03	平成30年度	香川県高松市幸町2番1号	上段は昼間コース、下段は、夜間主コース
	(夜)		10	—	20		0.75	平成30年度		
	経済学科(昼)	4	—	—	—	学士(経済学)	—	平成15年度		平成30年より学生募集停止
(夜)		—	—	—		—	平成15年度			
経営システム学科(昼)	4	—	—	—		—	平成15年度		平成30年より学生募集停止	
(夜)		—	—	—		—	平成15年度			
地域社会システム学科(昼)	4	—	—	—		—	平成15年度		平成30年より学生募集停止	
(夜)		—	—	—		—	平成15年度			
医学部							1.00			
医学科	6	109	2年次5	679	学士(医学)	1.00	平成15年度	香川県木田郡三木町大字池戸1750番地1	平成21年・22・24・25・30年度入学定員増による学年進行	
看護学科	4	60	3年次10	260	学士(看護学)	1.04	平成15年度			
臨床心理学科	4	20	—	40	学士(臨床心理学)	1.00	平成30年度			
創造工学部							1.03			
創造工学部	4	330	3年次20	660	学士(工学)	1.03	平成30年度	香川県高松市林町2217番地20		
工学部										
安全システム建設工学科	4	—	—	—	学士(工学)	—	平成15年度	香川県高松市林町2217番地20	平成30年より学生募集停止	
電子・情報工学科	4	—	—	—		—	平成15年度			
知能機械システム工学科	4	—	—	—		—	平成15年度			
材料創造工学科	4	—	—	—		—	平成15年度			
農学部							1.03			
応用生物科学科	4	150	—	600	学士(農学)	1.03	平成18年度	香川県木田郡三木町大字池戸2393番地		

等 の 状 況	教育学研究科 (修士課程)						0.51			
	学校教育専攻	2	12	—	24	修士(教育学)	0.58	平成15年度	香川県高松市幸町1番1号	
	教科教育専攻	2	18	—	36		0.52	平成15年度		
	学校臨床心理専攻	2	7	—	14		0.35	平成15年度		
	(専門職学位課程)						1.17			
	高度教職実践専攻	2	14	—	28	教職修士(専門職)	1.17	平成28年度		
	法学研究科 (修士課程)						0.87			
	法律学専攻	2	8	—	16	修士(法学)	0.87	平成15年度	香川県高松市幸町2番1号	
	経済学研究科 (修士課程)						0.60			
	経済学専攻	2	10	—	20	修士(経済学)	0.60	平成15年度	香川県高松市幸町2番1号	
	医学系研究科 (修士課程)						0.65			
	看護学専攻	2	16	—	32	修士(看護学)	0.65	平成15年度	香川県木田郡三木町大字池戸1750番地1	
	(博士課程)						1.12			
	医学専攻	4	30	—	120	博士(医学)	1.12	平成28年度		
	機能構築医学専攻	4	—	—	—		—	平成15年度		平成28年より学生募集停止
	分子情報制御医学専攻	4	—	—	—		—	平成15年度		平成28年より学生募集停止
	社会環境病態医学専攻	4	—	—	—		—	平成15年度		平成28年より学生募集停止
	工学研究科 (博士前期課程)						1.34			
	安全システム建設工学専攻	2	18	—	36	修士(工学)	0.63	平成15年度	香川県高松市林町2217番地20	
	信頼性情報システム工学専攻	2	24	—	48		1.20	平成15年度		
知能機械システム工学専攻	2	18	—	36		1.80	平成15年度			
材料創造工学専攻	2	18	—	36		1.80	平成15年度			
(博士後期課程)						0.46				
安全システム建設工学専攻	3	5	—	15	博士(工学)	0.60	平成16年度			
信頼性情報システム工学専攻	3	7	—	21		0.14	平成16年度			
知能機械システム工学専攻	3	5	—	15		0.93	平成16年度			
材料創造工学専攻	3	5	—	15		0.33	平成16年度			
農学研究科 (修士課程)						0.91				
応用生物・希少糖科学専攻	2	60	—	120	修士(農学)	0.91	平成30年度	香川県木田郡三木町大字池戸2393番地	平成30年より学生募集停止	
生物資源生産学専攻	2	—	—	—		—	平成18年度		平成30年より学生募集停止	
生物資源利用学専攻	2	—	—	—		—	平成18年度		平成30年より学生募集停止	
地域マネジメント研究科 (専門職学位課程)						0.93				
地域マネジメント専攻	2	30	—	60	経営修士(専門職)	0.93	平成16年度	香川県高松市幸町2番1号		

名称：附属高松小学校
目的：児童の心身の発達に応じて、初等普通教育を行うことを目的とするとともに、教育学部と一体となって、教育の理論及び実際に関する科学研究並びにその実証を行うことを目的とする。
所在地：香川県高松市番町5-1-55
設置年月：昭和24年5月
規模等：7,374.7㎡、建物面積：4,077.59㎡

名称：附属坂出小学校
目的：児童の心身の発達に応じて、初等普通教育を行うことを目的とするとともに、教育学部と一体となって、教育の理論及び実際に関する科学研究並びにその実証を行うことを目的とする。
所在地：香川県高松市番町5-1-55
所在地：香川県坂出市文京町2-4-2
設置年月：昭和24年5月
規模等：4,713.87㎡、建物面積：2,377.22㎡

名称：附属高松中学校
目的：生徒の心身の発達に応じて、中等普通教育を行うことを目的とするとともに、教育学部と一体となって、教育の理論及び実際に関する科学研究並びにその実証を行うことを目的とする。
所在地：香川県高松市鹿角町394
設置年月：昭和26年6月
規模等：5,482.22㎡、建物面積：3,526.60㎡

名称：附属坂出中学校
目的：生徒の心身の発達に応じて、中等普通教育を行うことを目的とするとともに、教育学部と一体となって、教育の理論及び実際に関する科学研究並びにその実証を行うことを目的とする。
所在地：香川県坂出市青葉町1-7
設置年月：昭和24年5月
規模等：4,912.86㎡、建物面積：2,753.95㎡

名称：附属特別支援学校
目的：知的障害者に対して小学校、中学校及び高等学校に準ずる教育を行い、あわせてその能力に応じて社会的自立に必要な知識・技能を授けることを目的とするとともに、教育学部と一体となって、教育の理論及び実際に関する科学研究並びにその実証を行うことを目的とする。
所在地：香川県坂出市府中町綾坂889
設置年月：昭和50年4月
規模等：3,501.46㎡、建物面積：2,165.93㎡

名称：附属幼稚園
目的：幼児を保育し、適当な環境を与えて、その心身の発達を助長するとともに、学部・大学院等における研究に協力し、及び学部の計画に従い学生の教育実地研究実施にあたることを目的とする。
所在地：香川県坂出市文京町1-9-4
設置年月：昭和24年5月
規模等：768.58㎡、建物面積：621.22㎡

名称：附属幼稚園高松園舎
目的：幼児を保育し、適当な環境を与えて、その心身の発達を助長するとともに、学部・大学院等における研究に協力し、及び学部の計画に従い学生の教育実地研究実施にあたることを目的とする。
所在地：香川県高松市番町5-1-55
設置年月：昭和51年4月
規模等：431.8㎡、建物面積：431.8㎡

名称：附属教職支援開発センター
目的：実践的指導力の向上及び教職支援体制の充実のため、学部と附属学校園、香川県教育委員会等地域社会の教育関係諸機関と連携・協働して、実地教育、教職支援及び教育開発の推進的役割を果たすことを目的とする。
所在地：香川県高松市幸町1-1
設置年月：平成27年4月
規模等：539.09㎡、建物面積：182.37㎡

名称：特別支援教室「すばる」
目的：①発達障害児（特別な教育的支援を必要とする子ども）の保護者や担任に対する相談と指導助言、②発達障害児への個に応じた指導・支援、③保護者や教員、各学校の特別支援教育コーディネーターへの研修、④地域における特別支援教育の推進方策に関する研究など、これらの事業を通じて地域における特別支援教育の充実に寄与することを目的とする。
所在地：香川県坂出市青葉町 2-7
設置年月：平成15年4月
規模等：742.21㎡、建物面積：385.42㎡

附属施設の概要

名称：香川大学瀬戸内圏研究センター庵治マリンステーション
目的：瀬戸内圏研究の推進を行うとともに、学生の実験、実習指導を行うことを目的とする。
所在地：香川県高松市庵治町鎌野4511-15
設置年月：平成21年4月
規模等：488.6㎡、建物面積：248.98㎡

名称：香川大学総合生命科学研究センター
RI実験施設
目的：放射性同位元素による実験・研究・教育を行うことを目的とする。
所在地：香川県木田郡三木町池戸1750-1
設置年月：平成6年2月
規模等：423.9㎡、建物面積：148.13㎡

名称：香川大学総合生命科学研究センター
動物実験施設
目的：実験動物の飼育管理、系統維持、開発等を行う。
所在地：香川県木田郡三木町池戸1750-1
設置年月：昭和61年3月
規模等：2116.58㎡、建物面積：699.9㎡

名称：香川大学総合生命科学研究センター
遺伝子実験施設
目的：ゲノム情報科学、組換えDNA実験、その他の遺伝子実験に関する研究及び教育を行う。
所在地：香川県木田郡三木町池戸2393
設置年月：平成13年3月
規模等：1513.2㎡、建物面積：387.71㎡

名称：香川大学希少糖研究センター
目的：生産方法、生理機能、用途などの研究がほとんど進んでいない「希少糖」に関する独自の研究を進展させるとともに、外部機関との共同研究を推進することにより、地域の科学技術の発展と産業の振興に寄与し、希少糖に関する情報の収集・発信及び教育研究の充実を目的とする。
所在地：香川県木田郡三木町池戸2393
設置年月：平成15年10月
規模等：300.79㎡、建物面積：300.79㎡

名称：香川大学図書館
目的：学部・研究科が集めた膨大な量の学術資料や研究成果を地域の生涯学習資料として公開することを目的とする。
所在地：高松市幸町1-1
設置年月：昭和45年3月
規模等：7301.09㎡、建物面積：1804.79㎡

名称：香川大学博物館
目的：香川大学の教育・研究において蓄積された標本、資料、発明品などの知的財産を収集、保管、展示し、地域の自然や文化に関して交流を広げ、香川大学と地域との連携を深めることを目的とする。
所在地：高松市幸町1-1
設置年月：平成20年3月
規模等：245.00㎡、建物面積：245.00㎡

名称：香川大学総合情報センター
目的：学内情報基盤担当組織の役割を担うと共に、先進的な教育・研究拠点として大学と地域社会に貢献することを目的とする。
所在地：高松市幸町1-1
設置年月：昭和49年3月
規模等：958.46㎡、建物面積：350.89㎡

名称：香川大学保健管理センター
目的：学生及び教職員の心身の健康増進や健康管理を目的とする。
所在地：高松市幸町1-1
設置年月：昭和43年3月
規模等：399.19㎡、建物面積：399.19㎡

名称：香川大学医学部附属病院
目的：良質な医療の提供、医学教育・研究の推進
所在地：香川県木田郡三木町池戸1750-1
設置年月：昭和58年4月
規模等：71,200.87㎡、建物面積：22,201.01㎡

名称：香川大学農学部附属農場
目的：学生への農場実習教育と教職員の研究及び栽培された作物の市場での販売等経営を行うことを目的としている。
所在地：さぬき市昭和字谷乙300番地2
設置年月：昭和44年3月
規模等：6,552.24㎡、建物面積：5,790.05㎡

香川大学 設置申請に関わる組織の移行表

令和元年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和2年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
香川大学				香川大学				
教育学部		3年次		教育学部		3年次		
学校教育教員養成課程	160	-	640	学校教育教員養成課程	160	-	640	
法学部		3年次		法学部		3年次		
法学科(昼間コース)	150	10	620	法学科(昼間コース)	150	10	620	
(夜間主コース)	10	-	40	(夜間主コース)	10	-	40	
経済学部		3年次		経済学部		3年次		
経済学科(昼間コース)	240	20	1,000	経済学科(昼間コース)	240	20	1,000	
(夜間主コース)	10	-	40	(夜間主コース)	10	-	40	
医学部		2年次		医学部		2年次		
医学科	109	5	609	医学科	95	5	595	(※定員:政策に伴う増減あり)
		3年次				3年次		
看護学科	60	10	260	看護学科	60	10	260	
臨床心理学科	20	-	80	臨床心理学科	20	-	80	
創造工学部		3年次		創造工学部		3年次		
創造工学科	330	20	1,360	創造工学科	330	20	1,360	
農学部		3年次		農学部		3年次		
応用生物科学科	150	-	600	応用生物科学科	150	-	600	
計	1,239	5 3年次 60	5,249	計	1,225	5 3年次 60	5,235	
香川大学大学院				香川大学大学院				
教育学研究科				教育学研究科				
学校教育専攻(M)	12	-	24		0	-	0	令和2年4月学生募集停止
教科教育専攻(M)	18	-	36		0	-	0	令和2年4月学生募集停止
学校臨床心理専攻(M)	7	-	14		0	-	0	令和2年4月学生募集停止
高度教職実践専攻(P)	14	-	28	<u>高度教職実践専攻(P)</u>	<u>20</u>	-	<u>40</u>	研究科の専攻の設置(事前伺)
法学研究科				法学研究科				
法律学専攻(M)	8	-	16	法律学専攻(M)	8	-	16	
経済学研究科				経済学研究科				
経済学専攻(M)	10	-	20	経済学専攻(M)	10	-	20	
医学系研究科				医学系研究科				
看護学専攻(M)	16	-	32	看護学専攻(M)	16	-	32	
医学専攻(4年制D)	30	-	120	医学専攻(4年制D)	30	-	120	
				<u>臨床心理学専攻(M)</u>	<u>10</u>	-	<u>20</u>	研究科の専攻の設置(意見伺)
工学研究科				工学研究科				
安全システム建設工学専攻(M)	18	-	36	安全システム建設工学専攻(M)	18	-	36	
信頼性情報システム工学専攻(M)	24	-	48	信頼性情報システム工学専攻(M)	24	-	48	
知能機械システム工学専攻(M)	18	-	36	知能機械システム工学専攻(M)	18	-	36	
材料創造工学専攻(M)	18	-	36	材料創造工学専攻(M)	18	-	36	
安全システム建設工学専攻(D)	5	-	15	安全システム建設工学専攻(D)	5	-	15	
信頼性情報システム工学専攻(D)	7	-	21	信頼性情報システム工学専攻(D)	7	-	21	
知能機械システム工学専攻(D)	5	-	15	知能機械システム工学専攻(D)	5	-	15	
材料創造工学専攻(D)	5	-	15	材料創造工学専攻(D)	5	-	15	
農学研究科				農学研究科				
応用生物・希少糖科学専攻(M)	60	-	120	応用生物・希少糖科学専攻(M)	60	-	120	
地域マネジメント研究科				地域マネジメント研究科				
地域マネジメント専攻(P)	30	-	60	地域マネジメント専攻(P)	30	-	60	
計	305		692	計	<u>284</u>		<u>650</u>	

別記様式第2号（その2の1）

教育課程等の概要															
(医学研究科臨床心理学専攻)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
基礎科目	臨床心理学研究法特論	1通	2				○		6	4	1			※講義	
	臨床心理学特論Ⅰ	1前		2		○			1						
	臨床心理学特論Ⅱ	1後		2		○			1		1			オムニバス共同(一部)	
	心理援助者のための職業倫理と研究・生命倫理	1通	1			○			1					兼2 オムニバス共同(一部)	
	心理援助職のための応用医学特論	1前	1			○								兼8 オムニバス	
	心理援助職のための多職種連携	1前	1			○			1	1	1			兼2 オムニバス共同(一部)	
	小計(6科目)	—	—	5	4	0		—	6	4	1			兼10	
専門科目	臨床心理面接特論Ⅰ(心理支援に関する理論と実践)	1前	2			○			1	1				オムニバス共同(一部)	
	臨床心理面接特論Ⅱ	1後		2		○			1						
	臨床心理査定演習Ⅰ(心理的アセスメントに関する理論と実践)	1前	2				○		1	2				※講義 オムニバス共同(一部)	
	臨床心理査定演習Ⅱ	1後		2			○		1						
	臨床心理基礎実習	1通	2					○	4	2					
	臨床心理実習Ⅰ(心理実践実習Ⅲ(心理臨床事例検討実習Ⅱ))	2通	1					○	3	2	1				
	臨床心理実習Ⅱ	2通		1				○	4	4	1				
	心理学研究法特論	1前		2		○								兼1	
	教育臨床心理学特論(教育分野に関する理論と支援の展開)	1後	2			○			2	1				オムニバス	
	発達臨床心理学特論	1前		2		○			1						
	家族・集団臨床心理学特論(家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践)	1後	2			○				1				※演習	
	産業・労働心理学特論(産業・労働分野に関する理論と支援の展開)	2前	2			○			2	1				※演習 オムニバス	
	犯罪心理学特論(司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開)	2休	2			○								兼1 ※演習 集中	
	福祉心理学特論(福祉分野に関する理論と支援の展開)	2休	2			○			1					兼1 オムニバス共同(一部)	
	精神医療における心理支援(保健医療分野に関する理論と支援の展開)	1前	2			○			1						
	心身医学と心理支援(保健医療分野に関する理論と支援の展開)	1後	2			○			1						
	面接技法演習	1後		2				○	4	4	1				
	力動的心理療法特論	1後		2		○			1						
	心の健康教育に関する理論と実践	2後	2			○				2					オムニバス共同(一部)
	心理実践実習Ⅰ(ケースフォーミュレーション実習)	1・2通	1					○	3	2	1				
	心理実践実習Ⅱ(心理臨床事例検討実習Ⅰ)	1通	1					○	3	2	1				
	心理実践実習A(地域医療実習)	1後	2					○	5	1	1				
	心理実践実習B(福祉・教育実習)	1後	2					○	4	2	1				
	心理実践実習C(精神・神経領域病院実習)	2通	2					○	3		1			兼1	
	心理実践実習D(身体領域病院実習)	2通	1					○	3		1			兼2	
小計(25科目)	—	—	32	13	0		—	6	4	1			兼6		

研究科目	課題研究（修士論文）	2通	4				○		6	4				
	小計（1科目）	—	4	0	0		—		6	4	0			
合計（32科目）		—	41	17	0		—		6	4	0			兼14
学位又は称号	修士（臨床心理学）	学位又は学科の分野			文学、医学									
卒業要件及び履修方法									授業期間等					
基礎科目、専門科目及び研究科目の必修科目41単位以上を修得し、学位論文を提出し、その審査及び最終試験に合格すること									1学年の学期区分			2期		
									1学期の授業期間			15週		
									1時限の授業時間			90分		

教育課程等の概要																
(医学研究科臨床心理学専攻)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
基礎科目	臨床心理学研究法特論	1通	2					○			6	4	1		※講義	
	臨床心理学特論Ⅰ	1前		2			○			1						
	臨床心理学特論Ⅱ	1後		2			○			1		1			オムニバス 共同(一部)	
	心理援助者のための職業倫理と研究・ 生命倫理	1通	1				○			1					兼2 オムニバス 共同(一部)	
	心理援助職のための応用医学特論	1前	1				○								兼8 オムニバス	
	心理援助職のための多職種連携	1前	1				○			1	1	1			兼2 オムニバス 共同(一部)	
	小計(6科目)	—	5	4	0			—		6	4	1			兼10	
専門科目	臨床心理面接特論Ⅰ(心理支援に関する 理論と実践)	1前	2				○			1	1				オムニバス 共同(一部)	
	臨床心理面接特論Ⅱ	1後		2			○			1						
	臨床心理査定演習Ⅰ(心理的アセスメント に関する理論と実践)	1前	2					○		1	2				※講義 オムニバス 共同(一部)	
	臨床心理査定演習Ⅱ	1後		2				○		1						
	臨床心理基礎実習	1通	2						○	4	2					
	臨床心理実習Ⅰ(心理実践実習Ⅲ(心理 臨床事例検討実習Ⅱ))	2通	1							3	2	1				
	臨床心理実習Ⅱ	2通		1						4	4	1				
	心理学研究法特論	1前		2			○								兼1	
	教育臨床心理学特論(教育分野に関する 理論と支援の展開)	1後	2				○			2	1				オムニバス	
	発達臨床心理学特論	1前		2			○			1						
	家族・集団臨床心理学特論(家族関係・ 集団・地域社会における心理支援 に関する理論と実践)	1後	2				○				1				※演習	
	産業・労働心理学特論(産業・労働分野 に関する理論と支援の展開)	2前	2				○			2	1				※演習 オムニバス	
	犯罪心理学特論(司法・犯罪分野に関 する理論と支援の展開)	2休	2				○								兼1 ※演習 集中	
	福祉心理学特論(福祉分野に関する理 論と支援の展開)	2休	2				○			1					兼1 集中 オムニバス 共同(一部)	
	精神医療における心理支援(保健医療 分野に関する理論と支援の展開)	1前	2				○			1						
	心身医学と心理支援(保健医療分野に 関する理論と支援の展開)	1後	2				○			1						
	面接技法演習	1後		2					○	4	4	1				
	力動的心理療法特論	1後		2			○			1						
	心の健康教育に関する理論と実践	2後	2				○				2					オムニバス 共同(一部)
	心理実践実習Ⅰ(ケースフォーミュ レーション実習)	1・2通	1							○	3	2	1			
	心理実践実習Ⅱ(心理臨床事例検討実 習Ⅰ)	1通	1							○	3	2	1			
	心理実践実習A(地域医療実習)	1後	2							○	5	1	1			
	心理実践実習B(福祉・教育実習)	1後	2							○	4	2	1			
	心理実践実習C(精神・神経領域病院実 習)	2通	2							○	3		1		兼1	
	心理実践実習D(身体領域病院実習)	2通	1							○	3		1		兼2	
小計(25科目)	—	32	13	0			—		6	4	1			兼6		

研究 科目	課題研究（修士論文）	2通	4				○		6	4				
	小計（1科目）	—	4	0	0	—			6	4	0			
合計（32科目）		—	41	17	0	—			6	4	0			兼14
学位又は称号		修士（臨床心理学）		学位又は学科の分野				文学、医学						
卒業要件及び履修方法								授業期間等						
基礎科目、専門科目及び研究科目の必修科目41単位以上を修得し、学位論文を提出し、その審査及び最終試験に合格すること								1学年の学期区分			2期			
								1学期の授業期間			15週			
								1時限の授業時間			90分			

【備考】

幸町キャンパスに心理相談室分室を設置しており、患者の属性に応じて三木町医学部キャンパスと併せて利用している。
 そのため、「臨床心理実習Ⅰ（心理実践実習Ⅲ（心理臨床事例検討実習Ⅱ））」「臨床心理実習Ⅱ」「心理実践実習Ⅰ（ケースフォーミュレーション実習）」における心理相談及びケースカンファレンスは、幸町キャンパス及び三木町医学部キャンパスの両方で実施される。

教 育 課 程 等 の 概 要														
(医学研究科臨床心理学専攻)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
基礎科目														
	小計（0科目）	—	0	0	0			—						
専門科目	臨床心理実習Ⅰ（心理実践実習Ⅲ（心理臨床事例検討実習Ⅱ））	2通	1					○	1					
	臨床心理実習Ⅱ	2通		1				○	1					
	心理実践実習Ⅰ（ケースフォーミュレーション実習）	1・2通	1					○	1					
	小計（3科目）	—	2	1	0			—	1					
研究科目														
	小計（0科目）	—	0	0	0			—						
合計（30科目）		—	2	1	0			—	1					
学位又は称号		修士（臨床心理学）			学位又は学科の分野			文学、医学						
卒業要件及び履修方法								授業期間等						
基礎科目、専門科目及び研究科目の必修科目41単位以上を修得し、学位論文を提出し、その審査及び最終試験に合格すること								1学年の学期区分			2期			
								1学期の授業期間			15週			
								1時限の授業時間			90分			

〔備考〕

「臨床心理実習Ⅰ（心理実践実習Ⅲ（心理臨床事例検討実習Ⅱ））」「臨床心理実習Ⅱ」「心理実践実習Ⅰ（ケースフォーミュレーション実習）」における心理相談及びケースカンファレンスは、幸町キャンパス及び三木町医学部キャンパスの両方で実施されるが、主たる心理相談及びケースカンファレンスは三木町医学部キャンパスで行うため、単位数は三木町医学部キャンパスで実施することで計上されている。

教 育 課 程 等 の 概 要															
(医学研究科臨床心理学専攻)															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
主題 科目	「主題A」 人生とキャリア	1・2①②③	1			○									兼17
	小計(1科目)		1	0	0										兼17
	「主題B」 現代社会の諸課題	歴史のなかの21世紀	1・2①②③④		1		○								8 兼8
	グローバル社会と異文化理解	1・2①②③④		1		○									11 兼11
	情報とコミュニケーション	1・2①②		1		○									8 兼8
	文化と科学・技術	1・2①②③④		1		○									25 兼25
	生命と環境	1・2①②③④		1		○									15 兼15
	人間と健康	1・2①②③④		1		○			4						17 兼17
	小計(6科目)		0	6	0	-			4	0	0	0	0	84	兼80
	「主題C」 地域理解	地域理解(基礎)	1②④	1			○								2 兼2
地域理解(講義)	1・2①②③④		1			○								18 兼18	
地域理解(実践)	1・2①~②③~④		2			○								15 兼18	
小計(3科目)		1	3	0	-			0	0	0	0	0	35	兼26	
学 問 基 礎 科 目	書物との出会い	1・2①~②		2			○								17 兼17
	自然科学基礎実験	1・2③~④		2			○								8 兼8
	哲学	1・2①~②③~④		2			○								2 兼2
	論理学	1・2①~②		2			○								1 兼1
	倫理学	1・2③~④		2			○								1 兼1
	芸術	1・2①~②		2			○								3 兼3
	心理学	1・2①~②③~④			2		○			2					4 兼4
	社会学	1・2①~②③~④		2			○								3 兼3
	教育学	1・2③~④	2				○								1 兼1
	歴史学	1・2①~②③~④		2			○								3 兼3
	文学	1・2③~④		2			○								1 兼1
	言語学	1・2③~④		2			○								1 兼1
	法学	1・2①~②③~④		2			○								3 兼3
	政治学	1・2①~②		2			○								1 兼1
	経済学	1・2③~④		2			○								1 兼1
	経営学	1・2③~④		2			○								1 兼1
数学	1・2①~②③~④		2			○								13 兼13	
地学(講義)	1・2①~②		2			○								5 兼5	
地学(実験)	1・2③~④		2				○							3 兼3	

	物理学(講義)	1・2①～②③～④	2			○						10	兼10			
	物理学(実験)	1・2①～②③～④	2					○				6	兼6			
	化学(講義)	1・2①～②③～④	2			○						5	兼5			
	化学(実験)	1・2①～②	2					○				2	兼2			
	生物学(講義)	1・2①～②③～④	2			○						4	兼4			
	生物学(実験)	1・2①～②	2					○				2	兼2			
	地理学	1・2③～④	2			○						1	兼1			
	統計学	1・2①～②	2			○						1	兼1			
	情報科学	1・2③～④	2			○						2	兼2			
	医学	1・2③～④	2			○						1	兼1	オムニバース		
	看護学	1・2①～②	2			○						5	兼5	オムニバース		
	小計(30科目)		6	52	2					0	2	0	0	0	111	兼101
	ゼミ 大学 入門	大学入門ゼミ	1①～②	2					○				4	兼4		
小計(1科目)			2	0	0				0	2	0	0	0		兼4	
シリ 情報 テラ ラ	情報リテラシー	1①～②	2			○				2				2	兼2	
	小計(1科目)		2	0	0				0	2	0	0	0		兼2	
既 修 外 国 語 (英 語)	Communicative English I	1①～②	2			○						4	兼4			
	Communicative English II	1③～④	2			○						4	兼4			
	Communicative English III	2①～②	1					○				3	兼3			
	Communicative English IV	2③～④	1					○				3	兼3			
	Academic English I	3①～②	1					○				3	兼3			
	Academic English II	3③～④	1					○				3	兼3			
小計(6科目)		6	2	0					0	0	0	0	0	20	兼11	
コ ミュ ニ ケ ー シ ョ ン 科 目 初 修 外 国 語	ドイツ語 I	1①～②	2					○				7	兼7			
	ドイツ語 II	1③～④	2					○				7	兼7			
	ドイツ語 III	2①～②	1					○				5	兼5			
	ドイツ語会話 III	2①～②	1					○				1	兼1			
	フランス語 I	1①～②	2					○				4	兼4			
	フランス語 II	1③～④	2					○				4	兼4			
	フランス語 III	2①～②	1					○				2	兼2			
	フランス語会話 III	2①～②	1					○				2	兼2			
	中国語 I	1①～②	2					○				5	兼5			
	中国語 II	1③～④	2					○				6	兼6			
	中国語 III	2①～②	1					○				3	兼3			
	中国語会話 III	2①～②	1					○				1	兼1			
	韓国語 I	1①～②	2					○				3	兼3			
韓国語 II	1③～④	2					○				3	兼3				

	韓国語Ⅲ	2①～②	1		○							1	兼1		
	韓国語会話Ⅲ	2①～②	1		○							1	兼1		
	小計 (16科目)		0	24	0				0	0	0	0	0	兼22	
実ス健康 技ボ ー ツ	健康・スポーツ実技	1①～②③～④	2			○						18	兼16		
	小計 (1科目)		2	0	0				0	0	0	0	0	兼18	
高度 教 養 主 題 科 目	防災ボランティア講座	2①～②	2		○							3	兼3		
	防災ボランティア実習	2③～④	2			○						2	兼2		
	医療と法	2③～④	2		○							2	兼2		
	海外体験型異文化コミュニケーションⅡ	1・2・3・4②	1		○							2	兼2		
	サーバント・リーダー養成入門Ⅱ	1・2・3・4②	1		○							2	兼2		
	知ブラe科目 有機化学概論 初級	1・2・3・4①～②	2		○							1	兼1	メディア	
	知ブラe科目 有機化学概論 中級	1・2・3・4③～④	2		○							1	兼1	メディア	
	知ブラe科目 海洋基礎生態学	1・2・3・4①～②	2		○							1	兼1	メディア	
	知ブラe科目 インドネシアの文化と会話	1・2・3・4③～④	1		○							1	兼1	メディア	
	知ブラe科目 海洋地球科学概論	1・2・3・4①～②	2		○							1	兼1	メディア	
	小計 (7科目)		2	15	0				0	0	0	0	0	兼14	
	上級英語	上級英語 (Study Abroad)	1・2・3・4①～②	2			○						1	兼1	
		小計 (1科目)		0	2	0				0	0	0	0	0	兼1
西 洋 古 典 語	ラテン語初歩 I	1・2・3・4①～②	1			○						1	兼1		
	ラテン語初歩 II	1・2・3・4③～④	1			○						1	兼1		
	小計 (2科目)		0	2	0				0	0	0	0	0	兼1	
高度 教 養 教 育 科 目 ・ 広 範 教 養 教 育 科 目	知ブラe科目 大学の知の活用	1・2・3・4③～④	2		○							1	兼1	メディア	
	知ブラe科目 行動統計学入門	1・2・3・4③～④	2		○							1	兼1	メディア	
	知ブラe科目 自動車概論	1・2・3・4③～④	1		○							1	兼1	メディア	
	知ブラe科目 大学生のための『安全・安心』の基礎講座	1・2・3・4③～④	2		○							1	兼1	メディア	
	知ブラe科目 徳島で暮らす・徳島で働くを考える	1・2・3・4①～②	1		○							1	兼1	メディア	
	知ブラe科目 数理学の世界	1・2・3・4③～④	2		○							1	兼1	メディア	
	知ブラe科目 子どもと学校	1・2・3・4③～④	2		○							1	兼1	メディア	
	知ブラe科目 情報社会のくらし	1・2・3・4③～④	2		○							1	兼1	メディア	
	知ブラe科目 デジタルものづくり入門	1・2・3・4①～②	1		○							1	兼1	メディア	
	知ブラe科目 アカデミック・プレゼンテーション (PowerPoint編)	1・2・3・4③～④	1		○							1	兼1	メディア	
	知ブラe科目 私たちの生活と材料	1・2・3・4③～④	1		○							1	兼1	メディア	
	知ブラe科目 和算の世界	1・2・3・4③～④	1		○							1	兼1	メディア	
	知ブラe科目 研究倫理	1・2・3・4③～④	1		○							1	兼1	メディア	
	知ブラe科目 インタフェースデザイン概論	1・2・3・4③～④	1		○							1	兼1	メディア	
	知ブラe科目 大学生生活入門	1・2・3・4①～②	2		○							1	兼1	メディア	
	知ブラe科目 学びの統合入門	1・2・3・4③～④	2		○							1	兼1	メディア	

		知ブラe科目 アクティブラーニング入門	1・2・3・4①～②	1		○							1	兼1	メディア			
		知ブラe科目 キャリアで活かすITリテラシー	1・2・3・4③～④	1		○								1	兼1	メディア		
		小計 (4科目)		0	26	0			0	0	0	0	0		兼12			
専門基礎科目	基幹科目	心理学概論	1①～②	2		○			6	2						オムニバス		
		心理学研究法	3①～②	2		○				2							オムニバス	
		心理学統計法	2①～②	2			○				1							
		心理学実験Ⅰ	2①～②	2				○			1							
		心理学実験Ⅱ	2③～④	2					○			1						
		臨床心理学概論	2①～②	2			○			1								
	関連科目	医学系	早期体験学習 (多職種連携)	1③～④	2				○	2	2					2	兼2	
			人体の構造と機能及び疾患Ⅰ (医学概論)	1③～④	2			○			2							オムニバス
			人体の構造と機能及び疾患Ⅱ (解剖学入門)	2①	1			○							2	兼2	オムニバス	
			人体の構造と機能及び疾患Ⅲ (生理学入門)	2②	1			○							2	兼2	オムニバス	
			人体の構造と機能及び疾患Ⅳ (生化学・分子生物学入門)	2①	1			○							4	兼4	オムニバス	
		小計 (11科目)		19	0	0	—		6	2	0	0	0		兼9			
専門	心理学系	学習・言語心理学	3③～④	2		○				1								
		知覚・認知心理学	2③～④	2		○					1							
		神経・生理心理学	3①～②	2		○				1								
		発達心理学	2①～②	2		○				1								
		青年心理学	3③～④	2		○				1								
		障害者・障害児心理学	3①～②	2		○				2							オムニバス	
		教育・学校心理学	2③～④	2		○										兼1		
		心理演習Ⅳ (グループ・コミュニケーション演習)	3③～④	2				○		2							オムニバス	
		社会・集団・家族心理学	2①～②	2		○					1							
		心理演習Ⅴ (コミュニティ・アプローチ演習)	2③～④	2		○				1	1							
	基幹科目	心理学系	福祉心理学	3①～②	2		○			2						兼1	オムニバス	
			司法・犯罪心理学	3①～②	2		○									兼1	集中	
			産業・組織心理学	3③～④	2		○					1						
			心理的アセスメント	2③～④	2				○		1							
			心理演習Ⅲ (心理的アセスメント演習)	3①～②	2				○		2							
			感情・人格心理学	2①～②	2		○				1							
			健康・医療心理学	3③～④	2		○				3							オムニバス
			心理学的支援法 (カウンセリング概論)	2①～②	2		○				1							
			人間性心理学	3③～④	2		○				2	1						オムニバス
			公認心理師の職責 (心理師実践職能論)	2③～④	2		○				4	1						オムニバス
		心理演習Ⅰ (コミュニケーション演習)	2③～④	2			○		2									
		心理演習Ⅱ (心理面接演習)	3①～②	2			○		2									

科 目		心理実習Ⅰ（心理支援実習）	3通	2			○	4	1														
	社会学系	関係行政論（社会医学・関係行政論）	2③～④	2			○													兼1			
		社会福祉論	2①～②	2			○														兼1		
	医学系	人体の構造と機能及び疾病Ⅴ（心理援助職のための内科的疾患概説）	3①～②	2			○		1												兼6		
		発達小児科学	3③～④	2			○															オムニバス	
		精神疾患とその治療（精神医学）	3①～②	2			○		1														
		心身医学	3③～④	2			○		1														
		生命倫理学	2②	1			○		1														
		心理実習Ⅱ（チーム医療実習）	4通	4				○	5														
		病理学・免疫学概説	2③	1			○															兼3	
	関連科目	微生物学・医動物学概説	2④	1			○															兼4	
		災害医学・緩和ケア	3③	1			○															兼4	
		医療薬理学	3④	1			○															兼1	
		教育系	教育原論	2・3・4①～②③～④		2	○																兼1
		障害児心理学	2・3・4③～④		2	○																	兼1
	課題研究	臨床心理学基礎研究Ⅰ	3①～②	2			○		6	2													
		臨床心理学基礎研究Ⅱ	3③～④	2			○		6	2													
		臨床心理学研究Ⅰ	4①～②	2			○		6	2													
		臨床心理学研究Ⅱ	4③～④	2			○		6	2													
		卒業研究	4通	4			○		6	2													
	小計（42科目）		79	0	4			6	2												兼24		
合計（132科目）			120	132	6			6	2	0	0	0									兼295		
学位又は称号		学士（臨床心理学）			学位又は学科の分野			文学関係、教育学・保育学関係、医学関係															
卒業要件及び履修方法								授業期間等															
全学共通科目 主題科目（主題A、B、C）8単位以上 学問基礎科目（文系科目）6単位以上 学問基礎科目（理系科目）4単位以上 高度教養教育科目・広範教養教育科目2単位以上 大学入門ゼミ2単位 情報リテラシー2単位 既修外国語6単位以上 初修外国語4単位以上 健康スポーツ実技2単位 合計 36単位以上 学部開設科目 専門基礎科目19単位 専門科目79単位以上 合計 98単位以上 総計 134単位以上								1学年の学期区分				2期											
								1学期の授業期間				15週											
								1時限の授業時間				90分											

授 業 科 目 の 概 要			
(医学研究科臨床心理学専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎科目	臨床心理学研究法特論	<p>課題研究に関する発表や討論をゼミナール形式で継続的に検討する。また、定期的（6月、12月、3月）に、臨床心理学専攻全体で構想発表会を開催して、その発表と討議を通して、個々の課題研究の問題と目的をより明確にする。関連課題等に関する多面的・総合的な検討の機会とする。</p> <p>学生各自は、このような検討の場を通して、研究課題を具体化・実践化する場とし、研究テーマに関する考察を深めるとともに、修士論文作成に繋ぐ機会として利用する。</p> <p>自らの研究課題を、ゼミナール形式で継続的に検討すると共に、臨床心理学専攻全体で年度を通して発表する。研究課題および関連課題に関する多面的・総合的な検討を行う。幅広い視野から研究テーマをとらえるとともに、発表を通して自らの問題意識を明確にする。また、研究を行う場合の留意点や倫理的配慮について習得する。研究発表およびプレゼンテーションの在り方についても学習する。</p> <p>① 林 智一 高齢者に対する力動的個人心理療法、高齢者のライフレビュー、映画を題材とした臨床心理学的研究に関して、研究の実践・指導を行い、その研究テーマなどからの論文指導を行う。</p> <p>② 橋本 忠行 治療的アセスメントに関する実践的研究、児童・青年と家族の心理療法、心理アセスメントの教育・訓練に関して、研究の実践・指導を行い、その研究テーマなどからの論文指導を行う。</p> <p>③ 山田 俊介 不登校などの臨床心理学的理解と援助、エンカウンターグループを中心としたグループ・アプローチ、カウンセリングの教育・訓練に関して、研究の実践・指導を行い、その研究テーマなどからの論文指導を行う。</p> <p>④ 竹森 元彦 児童期から青年期とその家族への心理療法、虐待などのトラウマのケア、当事者と家族・地域支援者同士のつながりのサポート、教育を生きた物語りから捉えた「ナラティブ・エデュケーション」やスクールカウンセリング、スーパーヴィジョンに関して、研究の実践・指導を行い、その研究テーマなどから論文指導を行う。</p> <p>⑤ 神原 憲治 心身相関の臨床心理学と臨床医学への適用、心身医学の基本概念・心身相関・ストレスと疾患の関連性の機序、医療機関等での臨床応用、応用精神生理学などの心身相関を踏まえた治療的アプローチ、心身症や機能的疾患の病態、心身相関をベースにした治療法など、心身医学の立場から研究の実践・指導を行い、その研究テーマなどから論文指導を行う。</p> <p>⑥ 黒滝 直弘 統合失調症・自閉症スペクトラム障害・パニック障害などの精神神経疾患の原因を解明と治療法の開発、高齢化社会におけるメンタルヘルスケア、認知症の合併症への対応法のエビデンスを構築、公認心理師の特に医療の中での役割、責任、経済効果の調査研究など、精神科医学の立場から研究の実践・指導を行い、その研究テーマなどから論文指導を行う。</p>	演習18.0時間 講義 4.5時間

授 業 科 目 の 概 要			
(医学研究科臨床心理学専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		<p>(⑦ 川人 潤子) 心理学の基礎的な理論や研究方法の理論や研究成果の応用可能性、個人の性格傾向や物事の考え方の抑うつやうつ病への影響に関する基礎的研究、抑うつを改善するための心理的介入プログラムの構築ならびに効果検証と心理的援助の方法など、研究の実践・指導を行い、その研究テーマから論文指導を行う。</p> <p>(⑧ 野口 修二) 様々な集団における人間の心理を対象とした基礎的および臨床的研究、家族療法やブリーフセラピーの理論と実践、大規模災害における被災自治体職員のメンタルヘルス支援に関して、研究の実践・指導を行い、その研究テーマなどから論文指導を行う。</p> <p>(⑨ 坂中 尚哉) 心理療法におけるナラティブアプローチの実践、心理療法における「反復される語り」に対するセラピストの関与に伴う展開過程、カンボジアをフィールドとしたインタビューやバウムテストによる文化比較に関する研究を行い、その研究テーマから論文指導を行う。</p> <p>(⑩ 谷渕 真也) 滞日外国人と地域住民の多文化共生、大学院生との共同によるボランティア活動の促進をテーマとするコミュニティ心理学的研究、機能分析心理療法（FAP）の理論と実践に関する臨床心理学的研究を行い、その研究テーマから論文指導を行う。</p> <p>(⑪ 長谷 綾子) 大学生のメンタルヘルスとカウンセリング、協働における支援者の内的プロセス、スーパーヴィジョン（臨床的実践からの学び）に関する研究を行い、その研究テーマから論文指導補助を行う。</p>	
	臨床心理学特論 I	<p>心理臨床とは何か及び心理臨床家の役割に関する基本的な内容について学習する。 具体的には、心理臨床家の現況とアイデンティティ、心理臨床家の倫理、心理アセスメント、心理学的処遇、様々な援助施設における心理臨床などについて学習する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(医学研究科臨床心理学専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	臨床心理学特論Ⅱ	<p>本授業では、臨床心理学の成立と展開、臨床心理学の対象論、臨床心理学の課題と展望について学ぶ。それらの内容について、各人が分担発表し、さらに討議を行うことを通して、公認心理師及び臨床心理士としての基礎的知識について学習する。</p> <p>本授業では、臨床心理学の定義、成立と展開、養成、対象論、課題と展望等の学習を通して、臨床心理学の原理や固有の方法論、パラダイムについて学び、公認心理師及び臨床心理士としての基礎について学習を深める。</p> <p>(オムニバス方式／計15回) (④ 竹森 元彦・⑩ 長谷 綾子 1回／15回) (共同) 第1回のオリエンテーション (④ 竹森 元彦 7回／15回) 臨床心理学の定義や展開、養成の学習を通して、臨床心理学の原理や固有の方法、パラダイムを学び、公認心理師及び臨床心理士としての基礎についての学習を深める。 (⑩ 長谷 綾子 7回／15回) 臨床心理学の対象論、課題と展望などの学習を通して、臨床心理学の原理や固有の方法、パラダイムを学び、公認心理師及び臨床心理士としての基礎についての学習を深める。</p>	オムニバス方式 共同 (一部)
	心理援助者のための職業倫理と研究・生命倫理	<p>研究・倫理教育は、大学院課程のみならず、臨床心理学の研究と実践にあたる全ての研究者にとって重要な項目である。本科目では、臨床心理学専攻大学院生を対象とした研究・生命倫理について講義を行う。また、研究という営みを行う専門職業人としての、さらには心理援助者としての、専門職としての倫理観の形成も将来に向けて不可欠である。そこで、本授業では、専門職としての倫理観を形成するための講義も合わせて実施する。</p> <p>研究の科学的意義が認められるには、研究倫理・生命倫理が担保されていることがベースとなる。そこで、研究の根幹となる倫理性に対する十分な理解と見識を深めること、専門職としての倫理観が形成されることを目的とする。また、本授業では倫理意識・規範を継続的に持つことができるように、定期的に講演会等に参加することが求められている。</p> <p>(オムニバス方式／計8回) (⑫ 西山 成 2回／8回) ① 研究倫理に関する講義①、② 研究倫理に関する講義② (⑭ 南野 哲男 2回／8回) ③ 生命倫理に関する講義①、④ 生命倫理に関する講義② (① 林 智一 3回／8回) ⑤ 職業倫理に関する講義①、⑥ 職業倫理に関する講義②、 ⑦ 職業倫理に関する講義③ (① 林 智一、⑫ 西山 成、⑭ 南野 哲男 1回／8回) (共同) ⑧ 研究・生命倫理に関するまとめ</p>	オムニバス方式 共同 (一部)

授 業 科 目 の 概 要			
(医学研究科臨床心理学専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	心理援助職のための応用医学特論	<p>この授業では、臨床心理学に関係の深い医学的内容についての講義を行い、心理援助を行うに当たって必要な医学的知識についての学びを深める。</p> <p>医療の現場においては、疾患の存在そのものが患者の心理に多大な影響を与えるものがあり、また、診断や治療の過程で高度な倫理的・心理学的判断を必要とする領域がある。これらは、悪性腫瘍、A I D S等の感染症、環境因子による疾患、ゲノム医療などである。また終末期医療についてもますます心理的援助が必要とされている。</p> <p>このような背景の下、心理援助職にとってとりわけ知識と理解が必要な医療分野のあり方について理解と考察を深めることをこの授業の目的とする。</p> <p>(オムニバス方式／全11回)</p> <p>(13) 松田 陽子 1/11回</p> <p>① 心理援助職のための腫瘍病理学概説</p> <p>(17) 辻 晃仁 2/11回</p> <p>② 心理援助職に必要な臨床腫瘍学概説、③ 悪性腫瘍に対する化学療法についての概論</p> <p>(22) 坂東 修二 2/11回</p> <p>④ A I D Sや院内感染などについての感染症概論、</p> <p>⑪ まとめ</p> <p>(21) 宮武 伸行 1/11回</p> <p>⑤ 環境因子と疾患との関係について</p> <p>(18) 山本 融 1/11回</p> <p>⑥ ブレイン・サイエンス概論</p> <p>(16) 日下 隆 1/11回</p> <p>⑦ ゲノム医療の概論とその倫理的側面について</p> <p>(20) 中條 浩介 1/11回</p> <p>⑧ 緩和ケアの概要と心理援助職に期待される役割について</p> <p>(19) 清水 裕子 2/11回</p> <p>⑨ 今日の終末期医療のあり方の概要と心理援助職に期待される役割について、⑩ 遺族のグリーフ・ケアのあり方と心理援助職に期待される役割について</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
(医学研究科臨床心理学専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	心理援助職のための多職種連携	<p>この授業では、心理援助職のための多職種連携についての講義（心理援助職、医師、看護師のそれぞれの思考過程の比較を通して）と議論、実践場面のシナリオ作成やロールプレイなどを通して、心理的援助を行うに当たって必要な多職種連携の概念、チームにおける心理援助職の独自性と求められる役割に基づいた、具体的なコミュニケーション・姿勢や態度のあり方など、心理援助職の立場から多職種の力をどのように引き出すのかなどについて学びを深める。</p> <p>医療・教育・福祉等の分野においては多職種によるチーム支援を行うことが不可欠になっているが、心理援助職にとっての多職種連携はどうあるのかについて十分に議論されているとは言えない。このため、チーム支援の必要性を十分に認識し、心理援助職の独自性と求められる役割に基づいて、心理援助職として多職種の力をどのように引き出すのかについて議論を深める必要がある。</p> <p>このような背景の下、心理援助職にとってとりわけ知識と理解が必要な医療分野における、心理援助職のための多職種連携医療やチームアプローチのあり方について、グループワークやシナリオ作成、ロールプレイ等を通して、守秘義務の取り扱いや含めて、考察を深めることをこの授業の目的とする。</p> <p>心理実践実習の中での多職種連携の理解へとつなげていく。</p> <p>(オムニバス方式／全11回)</p> <p>(④ 竹森 元彦 4/11回)</p> <p>① 多職種連携とは何か、② 心理援助職の多職種連携とは何か</p> <p>⑩ スクールカウンセラーの多職種連携について</p> <p>⑪ 全体のまとめと振り返り</p> <p>(② 坂東 修二 1/11回)</p> <p>③ チーム医療における医師の役割と、心理援助職に期待する役割</p> <p>(⑩ 清水 裕子 1/11回)</p> <p>④ チーム医療における看護師の役割と、心理援助職に期待する役割</p> <p>(④ 竹森 元彦、⑧野口 修司、⑪長谷 綾子 3/11回) (共同)</p> <p>⑤ シナリオ法による心理援助職の多職種連携</p> <p>⑥～⑦ ロールプレイを通しての心理援助職の多職種連携</p> <p>(⑪ 長谷 綾子 1/11回)</p> <p>⑧ 医療における心理援助職の多職種連携について</p> <p>(⑧ 野口 修司 1/11回)</p> <p>⑨ 震災における心理援助職の多職種連携について</p>	オムニバス方式 共同（一部）

授 業 科 目 の 概 要			
(医学研究科臨床心理学専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	臨床心理面接特論Ⅰ (心理支援に関する理論と実践)	<p>臨床心理面接は、臨床心理学的援助をおこなう際の基本的な関わりである。臨床心理面接の基本を、各技法のロールプレイや事例検討、相談室及び遊戯療法室の見学等を通して体験的に学び、面接者としての関わりを具体的に想起できるようになることを目的とする。具体的には、臨床心理学における援助論、臨床心理面接学、心理療法の歴史と哲学などを学ぶ。そして、臨床心理面接技法（力動論、行動論・認知論、家族療法・夫婦療法、遊戯療法、物語アプローチ）について、分担発表とロールプレイや事例論文の検討、議論及びレクチャーを通して学ぶ。</p> <p>授業では、まず援助について取り上げる。そして、臨床心理面接学の定義、歴史と哲学について学ぶ。そして、臨床心理面接に必要な基本概念の講義ののち、臨床心理面接技法として、力動論、行動論・認知論、システム論・家族療法・夫婦療法、遊戯療法、物語アプローチについて取り上げる。受講者による発表とともに、ロールプレイ等による実技訓練、事例論文の検討、相談室及び遊戯療法室の見学等をおこなう。これらの体験的な学びを通して、公認心理師と臨床心理士としての考え方、基本的な心理面接技法、それぞれの技法における面接者としての関わり方の具体を理解することを目的とする。</p> <p>(オムニバス方式／計15回) (④ 竹森 元彦・⑩ 谷渕 真也 1回／15回) (共同) 第1回のオリエンテーション (④ 竹森 元彦 7回／15回) 臨床心理学における援助論、臨床心理面接学、力動論、システム論・家族療法・夫婦療法、物語アプローチについて学ぶ。 (⑩ 谷渕 真也 7回／15回) 臨床心理面接学、心理療法の歴史と哲学、行動論・認知論、遊戯療法について学ぶ。</p>	オムニバス方式 共同（一部）
	臨床心理面接特論Ⅱ	<p>代表的な臨床心理面接の理論と進め方について資料を通して理解すると共に、臨床心理面接の各アプローチについて、その特徴、意義、進める上での要点・留意点、臨床心理面接を行うことができるようになる上で、自分の今後の課題・習得する必要がある内容などについて議論する。</p> <p>具体的には、①クライアント中心療法の面接事例、②親子並行面接の理論と進め方、③グループ・アプローチの理論と進め方、④コンサルテーションの理論と進め方について学習する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(医学研究科臨床心理学専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	臨床心理査定演習Ⅰ (心理的アセスメントに関する理論と実践)	<p>この科目では、臨床心理査定（心理アセスメント）の定義、倫理、歴史、方法、そして研究法について、公認心理師・臨床心理士としての実践に活かすことを念頭におきながら、学びを深めていく。臨床心理学的支援に必要とされる各種心理検査を、標準化された方法で実施できるようになる。</p> <p>①心理査定の基本的な考え方や態度を習得すること、②個別式知能検査（成人・児童）、神経心理学的検査、症状評価尺度、描画法、そしてMMPIの実施・分析・解釈ができるようになること、の2点を目的とする。本科目で取り上げる検査は、教育、司法、医療、福祉そして産業などの領域で幅広く使用されているものである。標準化された方法で実施できるようになることは、対象となる方を正確に理解するためにも欠かせない。心理査定の技術者（Technician）としての側面を磨く。臨床心理査定におけるDSM、ICDといった診断基準の活用、心理検査を含むアセスメントに関する技法の活用、APAを含む倫理指針、については海外での研究や臨床実践を踏まえた講義・演習を行う。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) ② 橋本 忠行・⑨ 坂中 尚哉・⑩ 谷渕 真也 1/15回) (共同)</p> <p>① オリエンテーション ② 橋本 忠行・⑨ 坂中 尚哉 4/15回) (共同) ③ 医療・教育・福祉・司法領域での実践、⑬ MMPI、⑭ 描画法、⑮ 心理アセスメントの事例研究 ② 橋本 忠行・⑩ 谷渕 真也 4/15回) (共同) ⑤-⑧ 個別式知能検査 (WISC-IV/WAIS-IV) ② 橋本 忠行 6/15回) ② 定義、倫理、心理アセスメントと診断、④ 実践のための諸概念、⑨-⑩神経心理学的検査、⑪-⑫ 症状評価尺度</p>	オムニバス方式 共同（一部） 演習16.5時間 講義 6.0時間
	臨床心理査定演習Ⅱ	<p>「臨床心理査定演習Ⅰ（心理的アセスメントに関する理論と実践）」を更に発展させ、質的データと量的データが共に重視される検査（PF-Study等）について学ぶ。また、より複雑であるロールシャッハ法（包括システム）についても、その実施から報告書作成までを実習する。その後医療分野や教育分野など、さまざまな分野における心理アセスメントの手続きについて、心理的支援の対象者（クライアントやその家族など）と協働的な関係を築きながら実践する方法を習得する。加えてそれらと結びついた近年の国内外の研究を合わせて紹介し、臨床心理査定の研究法としての側面についても理解を深める。</p> <p>①ロールシャッハ法（包括システム）の実施・分析・解釈・報告書作成ができるようになる、②協働的/治療的アセスメントの実践を学ぶ、の2点を目的とする。対象となる方のこころの内側を理解し、さらに得られた理解を実際の支援につなげていく過程を学ぶ。「心理的アセスメントに関する理論と実践（臨床心理査定演習Ⅰ）」における心理査定の技術者としての側面に加え、査定者（Assessor）としての効果的なはたらきかけができるようになる。また心理アセスメントの事例研究では、こころと身体のつながりへの理解や、多文化理解/共生の視点が重要であることを学ぶ。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(医学研究科臨床心理学専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	臨床心理基礎実習	<p>以下の内容を通して、カウンセラーとしての基本的姿勢と基本的技能を学習する。</p> <p>オリエンテーションの後、自己理解を深めるための基礎的体験学習、カウンセリング・ロールプレイの演習を心理臨床相談室の面接室で実施し、その検討を行う（1グループ5人程度のグループ・スーパービジョン）。そして、ロールプレイ全体の体験学習の振り返りや事例検討等を通して、カウンセラーとしての十分な姿勢や技能が身に付いた者は、試行カウンセリングに進み、学部学生の中でクライアント役について協力の承諾を得たものに対して、5回のカウンセリングを実施する。これらの演習及び実習により、カウンセラーの応答・姿勢、カウンセラーとしての自分の応答・姿勢の特徴や課題の把握、共感的理解に基づいたコミュニケーションなどの課題を修得する。</p> <p>臨床場面での相談活動に携わる準備として、自己理解を深めるとともに、カウンセラーとしての基本的姿勢と基本的技能を習得する。</p>	
	臨床心理実習Ⅰ (心理実践実習Ⅲ(心理臨床事例検討実習Ⅱ))	<p>本研究科附属心理臨床相談室において、院生スタッフが担当する心理臨床面接やプレイセラピーの事例について検討する。事例提供者の発表素材に基づき、グループ・ディスカッション及びグループ・スーパーヴィジョン形式で、多面的かつ精密に検討していく。</p> <p>授業は、通年15回(隔週)おこなう。まず事例提供者が事例の概要、見立て、心理療法の展開過程を提示し、さらに、担当者としてどのように考えどのように関わっていたかなどの主観的な読みを提示する。質疑応答やディスカッションを通して、心理臨床事例に関して理解を深めていく。同時に、セラピストとしての態度、関わり方等に関しても、各自の実践事例と関連づけながら、体得していく。</p>	
	臨床心理実習Ⅱ	<p>心理臨床相談室のケースを担当することで、心理援助の実際を学ぶ。ケースについて記録・考察を行った上で個人スーパービジョンを受け、さまざまな心の問題の理解や対応の仕方を習得する。</p> <p>実際の相談ケースを担当し、個人スーパービジョンを受けることを通して、ケースの理解の進め方、具体的な対応の仕方を習得する。</p>	
	心理学研究法特論	<p>「臨床心理学調査・研究」は、臨床心理士に求められる固有な専門業務の一つである。自身の興味・関心からリサーチクエスチョンを立て、いかに論文化していくか、そのプロセスを論文の精読やディスカッションを通して考えていく。</p> <p>心理学研究法を学び、修士論文作成のための知識や能力を身につける。主な心理学研究法について理解し、心理学研究によって得られた成果を、適切に評価するなどを身につけることによって、修士論文作成に関する基礎知識を学び、自身の研究計画を立てることができるとを目標とする。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(医学研究科臨床心理学専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	教育臨床心理学特論 (教育分野に関する理論と支援の展開)	<p>大学における学生相談や大学附属の心理教育相談室、また小・中学校から幼稚園や高校にも広がりを見せるスクールカウンセラーなど、教育分野では心理支援者が広く活躍している。そこでは、要心理支援者の発達段階や教育現場の特性への理解が求められる。また、保護者や教職員、関係機関との協働も重要となる。さらに、滞日外国人児童への支援など、グローバルマインドも求められる。この授業では、公認心理師に必要な教育分野での理論と支援の実践について習得する。</p> <p>児童・生徒・学生など、要心理支援者の発達段階の特性を理解し、児童期・青年期に関する医学的知識を習得する。そして、教育現場の特性を踏まえた心理支援を行えるよう、理論と心理実践について学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (⑨ 坂中 尚哉 13/15回) 教育分野における制度と諸問題、スクールカウンセリングの理論と実践、児童生徒・教職員のメンタルヘルスについて学ぶ。 (⑤ 神原 憲治 1/15回) 思春期・青年期の心身症およびその周辺疾患について学ぶ (⑥ 黒滝 直弘 1/15回) 児童期・青年期に好発する主要な疾患・障害について学ぶ</p>	オムニバス方式
	発達臨床心理学特論	<p>発達臨床心理学とは、誕生から死に至る人生の過程に関わる臨床心理学のことである。臨床心理学と発達心理学の協働（コラボレーション）の新たな枠組みでもありとされている（下山，2001）。本授業では、人生の各時期のこのころの主要テーマについて、上記の観点から考察する。発達臨床心理学的観点は、心理臨床家を目指す人にとっては、広い領域で求められる、不可欠のものである。また、受講者自身のこのころの発達や人生の過程を考える際の指針ともなる。</p> <p>受講者による発表をもとに授業を進めるので、発表者以外の受講者からの積極的な意見・コメントを期待する。そのためには、発表者以外の受講者も必ず予習しておく必要がある。また、レポートを執筆し、ピアレビューを実施する。</p> <p>各発達段階において優勢となる心理的危機や問題と、それらに対する心理的援助について理解することを目的とする。受講者がテキストをベースとした発表を行い、質疑応答によって基本的理解の深化と定着をめざす。さらにレポート執筆を通して受講者自身の発達臨床心理学観を整理して、他者に適切に説明できるようになってもらいたい。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(医学研究科臨床心理学専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	家族・集団臨床心理学特論（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践）	<p>臨床心理学の実践において、個人に対する心理的な援助だけではなく、不登校や引きこもり、子どもの非行や夫婦の不和といった家族に関する問題や社会における人間関係の問題等、複数人が関与する問題についても取り扱わなければならない場面が多く存在する。また、近年では滞日外国人家族への支援といったグローバルな視点も求められる。本授業では、そのような複数人が関与する問題に対するアプローチとして発展していった家族療法およびブリーフセラピーを主軸としながら、家族関係や集団、地域社会においてどのように心理支援を行っていけば良いのかについて紹介していく。</p> <p>具体的には、心理的な問題に対してシステムックにアプローチをしていく家族療法およびブリーフセラピーに関する諸理論および技法について事例を交えながら学習し、加えてロールプレイを用いることで実践的なトレーニングについても行っていく。</p>	講義 9.0時間 演習 13.5時間
	産業・労働心理学特論（産業・労働分野に関する理論と支援の展開）	<p>近年、職場における業務負担や人間関係のストレスによるうつ病の発症および自殺の増加に伴い、産業・労働分野における臨床心理学の重要性が高まっている。産業・労働分野における心理支援には、問題を抱えた個人へのアプローチに加えて、職場という組織・集団の視点を踏まえたシステムックなアプローチが不可欠となる。また、必要に応じて産業医といった関係者との連携が非常に重要となってくる。加えて、近年では外国人労働者の雇用実態と就業支援など、グローバルな視点が求められる。本授業では、個人およびシステムックなアプローチとしてブリーフセラピーの考え方に基づき、産業・労働分野における心理支援について紹介していく。</p> <p>具体的には、心理的な問題に対してシステムックにアプローチをしていくブリーフセラピーをどのように産業・労働分野において活用していくのかについて事例を交えながら学習し、加えてロールプレイを用いることで実践的なトレーニングについても行っていく。加えて、産業・労働分野における精神疾患や産業医の業務といった医学的知識についても学ぶ。</p> <p>（オムニバス方式／全15回） ⑧ 野口 修司 13／15回） 産業・労働分野における諸問題やシステムック・アプローチに基づいた心理援助の実践について学ぶ。 ⑤ 神原 憲治 1／15回） 産業医の業務やストレスチェック制度について学ぶ ⑥ 黒滝 直弘 1／15回） 産業・労働分野に関連する主要な精神疾患について学ぶ</p>	オムニバス方式 講義10.5時間 演習12.0時間

授 業 科 目 の 概 要			
(医学研究科臨床心理学専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	犯罪心理学特論 (司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開)	<p>司法・犯罪分野においては、犯罪や非行をした者について、犯罪や非行に至る原因や心理の分析、再犯・再非行のリスク評価、矯正・更生のための指導・助言、処遇プログラムの提供等が行われる。それらの基盤となる様々な理論と支援の展開について、講義・演習形式で学ぶ。</p> <p>公認心理師・臨床心理士として必要な司法・犯罪心理学とその関連領域についての知識を習得し、理解する。司法・犯罪分野においては、当事者が必ずしも援助を求めているという状況で信頼関係を築く必要があることも多い。また家事事件においては、当事者や子どもへの中立的な立場での関与も必要である。そのために必要な心理的評価や当事者等との関係のつくりかた、さらに支援の展開を学ぶ。</p>	集中 講義19.5時間 演習 3.0時間
	福祉心理学特論 (福祉分野に関する理論と支援の展開)	<p>人は生きていく中で、時に困難を抱えたり様々な障害に見舞われたりすることもある。それらの問題を受け止め、解決したり緩和したりする社会制度や福祉サービス、相互扶助などのシステムが求められる。福祉に関わる機関やシステム、地域福祉などにおいて、専門的な心理支援者としての公認心理師の役割が今後ますます期待される。また、滞日外国人やその児童への社会福祉の観点からの支援など、グローバルマインドも求められる。</p> <p>福祉分野には多様な職種が関わっている。他職種から、連携の対象として公認心理師にまず求められるのは、心理的支援に関する専門性である。さらに、関連する法規や制度に関する知識も不可欠である。本科目では、これらの習得を目的とする。</p> <p>(オムニバス方式/計15回) ④ 竹森 元彦・19 四方 克尚 1回/15回) (共同) ガイダンス ④ 竹森 元彦 2回/15回) 地域福祉および関連職種との連携・協働、虐待に関する必要な支援について学ぶ。 (19 四方 克尚 12回/15回) 福祉現場において生じている問題と背景、社会的課題及び必要な支援方法、認知症や高齢者に関する理解と支援方法について学ぶ。</p>	集中 オムニバス方式 共同 (一部)

授 業 科 目 の 概 要			
(医学研究科臨床心理学専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	精神医療における心理支援 (保健医療分野に関する理論と支援の展開)	<p>精神疾患に含まれるものは多岐にわたるので本講義では、主にICD（疾病及び関連保健問題の国際統計分類）に基づいたカテゴリーを扱うこととする。認知症や器質性・症候性精神障害（F0）、アルコールをはじめとする薬物関連障害（F1）、統合失調症（F2）、躁うつ病（F3）、神経症性障害（F4）、摂食障害（F5）、パーソナリティ障害（F6）、知的障害（F7）、発達障害（F8）、多動性障害など（F9）、てんかん（G40-41）、睡眠障害（G47）などが挙げられる。これらの疾患は、心理学的要因、社会的要因、そして生物学的要因から病態を理解した上で、心理専門職としての支援方法を学ぶことになる。</p> <p>本講座では、そのうち生物学的な病態の解明や治療法の開発をおこなう生物学的精神医学について理解することを目標としている。</p> <p>各種精神疾患の要因、特に生物学的な成因を理解する。 各疾患に対する薬物療法、心理支援について理解する。</p>	
	心身医学と心理支援 (保健医療分野に関する理論と支援の展開)	<p>心身医学は心身相関（心理と身体の関係）を基本概念とした医学であり、医療に適用した心療内科、疾患としての心身症やストレス関連疾患の基盤になる医学である。本科目では、心身医学の概念、心身相関の生理学、心身相関の評価とストレス学、心身症の病態及び疾患論、心療内科学及びその治療論について、心理支援との関連を踏まえながら、実践的な理解を目指す。</p> <p>医療、産業、教育等の現場において、ストレス関連疾患及び心身症は増加の傾向にあり、心理臨床において心身医学の基本的知識は必須のものとなっている。また、社会的意義が大きい生活習慣病においても、その心身症としての側面が問題となっている。</p> <p>それを踏まえて本科目では、心身医学の基本概念、心身相関、ストレスと疾患の関連機序などの基礎的概念の理解と臨床的側面、心身相関の研究の現状と方法等について、心理支援において必要な心身医学の知識と実践的な理解を深めることを目的とする。</p>	
	面接技法演習	<p>『臨床心理基礎実習』における、試行カウンセリングのスーパーヴィジョンに関する科目である。面接技法演習（試行カウンセリングのスーパーヴィジョン）とは次のような過程を踏む。まず、スーパーバイザーと試行カウンセリングに関する事前の打合せを行う。試行カウンセリングの準備として、対象者（学部生の協力者）への連絡の取り方、打合せの仕方・契約の仕方、実施上の留意点などについてスーパーバイザーの指導のもとに学習する。試行カウンセリングを実施して、各回ごとに面接記録を作成し、スーパーバイザーに個人スーパーヴィジョンを受ける。また、試行カウンセリング終了後には、面接過程全体の振り返り・まとめを行う。</p> <p>試行カウンセリングにおいて、5回の面接のそれぞれの回の中で、クライアントの心理の理解と、カウンセラーとしての自分のコミュニケーションの在り方を学ぶ。また、カウンセリングの契約、始まり方、終わり方などの基本的な進め方・留意点を修得する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(医学研究科臨床心理学専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	力動的心理療法特論	<p>多様な心理療法の中における精神分析、対人関係論、力動的心理療法の基礎概念、力動的心理療法の技法について、受講者による各テーマについての発表・質疑応答、レポートを執筆し、受講者間で相互レビューを実施するなどによって学ぶ。</p> <p>精神分析の基本概念を理解、習得することを目的とする。たとえば転移-逆転移などの基本概念は、多様なセッティングの心理療法においても有用である。力動的心理療法家を目指す受講者のみならず、広く心理臨床家にとって有用な知見の習得を目指す。</p>	
	心の健康教育に関する理論と実践	<p>公認心理師法第2条第4号は、公認心理師の業務の1つに「教育及び情報の提供」を位置づけている。このような心の健康教育は、すべての国民を対象とするものであり、公認心理師にとっての要心理支援者を大きく広げることにつながる。</p> <p>本授業では、心の健康教育の中核として、心理学に基づく知識や方法を提供する、予防開発的な心理教育の理論と実践について学ぶことを目的とする。</p> <p>(オムニバス方式／全15回) (⑦ 川人 潤子・⑩ 谷渕 真也 2/15回) (共同) インTRODクシヨンとまとめを共同で実施する。 (⑦ 川人 潤子 6回/15回) 心の健康教育に重要なカウンセリング心理学などの理論を理解した上で、実践方法を計画する。 (⑩ 谷渕 真也 7回/15回) 心の健康教育を実施する上での公認心理師の役割を理解し、コミュニティ心理学や学校心理学などの知識を習得する。</p>	オムニバス方式 共同 (一部)
	心理実践実習 I (ケースフォーミュレーション実習)	<p>心理実践実習 I は、インテーク面接の事例、1～5回の事例の初期経過の事例について、グループ・ディスカッションおよびグループ・スーパーヴィジョンを行って、そのケースの見立てや面接方針(ケースフォーミュレーション)過程を検討する。通年で2年間行う。M1は、そのような検討会の場に参加して議論する。M2は、事例検討に参加しての議論を深めると共に、自分の担当した事例の初期経過について発表する。事例の初期対応と見立て・面接方針(ケースフォーミュレーション)について、2年間を通して修得する。</p> <p>インテーク面接、1～5回の事例の初期経過報告等の事例検討会によって、インテーク面接とは何か、そこでの事例の読み方、事例の初期の展開の仕方、見立てや面接方針の立て方などについて学ぶことを目的とする。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(医学研究科臨床心理学専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	心理実践実習Ⅱ (心理臨床事例検討実習Ⅰ)	<p>本研究科附属心理臨床相談室において、院生スタッフが担当する心理臨床面接の事例について検討する。大学院1年として、その事例検討の場に参加する。そして、実際の事例報告から事例の展開、担当者の関わり方や理解の仕方についての議論を通して、大学院2年になって、自分がケース担当するための準備とする。</p> <p>授業は、通年15回(隔週)おこなう。まず事例提供者が事例の概要、見立て、心理療法の展開過程を提示し、さらに、担当者としてどのように考えどのように関わっていたかなどの主観的な読みを提示する。そのうえで、大学院1年の時は、参加者として、質疑応答やディスカッションを通して、心理臨床事例に関して理解を深めていく。同時に、セラピストとしての態度、関わり方等に関しても、講義での議論や演習経験と関連づけながら、学んでいく。</p>	
	心理実践実習A (地域医療実習)	<p>この授業は、実習生が、1年次に、地域の精神科や心療内科病院・クリニックにおいて心理実践実習を積むことによって、地域の精神科や心療内科における心のケアの現状を学ぶとともに、診察陪席、インテーク面接、カンファレンス、デイケア等の見学・観察・支援の補助を中心とした実習を通して、公認心理師の活動や実情、課題などを学ぶことを目的とする。とくに心理的支援の実際や心理検査の有効な使い方、集団療法をはじめとするグループ活動、また医師や看護師をはじめとする多職種との連携の在り方など、公認心理師が身につけるべき知識を体験的に学ぶ。</p> <p>学部で培った心理に関する支援の実態に対する基礎的な理解をもとに、地域の精神科や心療内科という心理実践の現場で、心理に関する支援を要する者に対する支援（心理に関する支援を要する者の心理状態を観察し、その支援の補助）についての実習を行うことを目的とする。そこで、心理に関する支援を要する者等に関するニーズの把握及び支援計画の作成とチームアプローチ、多職種連携及び地域連携、公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解などについて修得する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(医学研究科臨床心理学専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	心理実践実習B (福祉・教育実習)	<p>この授業は、実習生が、1年次に、地域の教育・福祉施設において心理実践実習を積むことによって、地域の教育施設及び福祉施設における心のケアの現状を学ぶとともに、施設の見学・観察・支援の補助を中心とした実習を通して、公認心理師の活動や実情、課題などを学ぶことを目的とする。とくに心理的支援の実際や心理検査の有効な使い方、グループ活動、また教員や施設職員をはじめとする多職種との連携の在り方など、公認心理師が身につけるべき知識を体験的に学ぶ。</p> <p>学部で培った心理に関する支援の実態に対する基礎的な理解をもとに、地域の教育・福祉施設という心理実践の現場で、心理に関する支援を要する者に対する支援（心理に関する支援を要する者の心理状態を観察し、その者およびその関係者の相談に応じ、心理的支援を行うこと）についての実習を行うことを目的とする。そこで、心理に関する支援を要する者等に関するニーズの把握及び支援計画の作成とチームアプローチ、多職種連携及び地域連携、公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解などについて修得する。</p>	
	心理実践実習C (精神・神経領域病院実習)	<p>この授業は、1年次の心理実践実習A,B（地域病院実習）を踏まえ、実習生が本学の附属病院（精神科）及び地域の病院（精神科）においてさらに心理実践実習を積むことによって、精神科における心のケアの現状を学ぶとともに、診察陪席、インテーク面接、心理検査、心理面接、カンファレンス、デイケア等を中心とした実習を通して、要支援者において同意が得られたケースに関わりながら、公認心理師の活動や実情、心理的援助をする上での自分の課題課題などを学ぶことを目的とする。とくに精神科における心理的支援の実際や心理検査の有効な使い方、集団療法をはじめとするグループ活動、精神科における患者の心理的理解・支援のあり方、また医師や看護師をはじめとする多職種との連携の在り方など、公認心理師が身につけるべき知識を体験的に学ぶ。修士2年次に選択する科目とする。精神科神経科の医師からの指導助言を受ける。</p> <p>学部で培った心理に関する支援の実態に対する基礎的な理解をもとに、附属病院精神科及び地域の病院（精神科）という心理実践の現場で、心理に関する支援を要する者に対する支援（心理に関する支援を要する者の心理状態を観察し、その者およびその関係者の相談に応じ、援助を行うこと）についての実習を行うことを目的とする。そこで、心理に関する支援を要する者等に関するニーズの把握及び支援計画の作成とチームアプローチ、多職種連携及び地域連携、公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解などについて修得する。</p> <p>(④ 竹森 元彦、⑤ 神原 憲治、⑥ 黒滝 直弘、⑪ 長谷 綾子)</p> <p>事前指導として、実習オリエンテーション、施設見学、現場スタッフによる講義等を実施する。日々の実習終了後、小グループで、その日の疑問や気づきに関連した指導を行い、実習生からの実習やケースに関する質問を受けたり、グループ・スーパーヴィジョンを行う。実習が終了したら、実習全体を通しての振り返りである事後指導を行う。さらに、専攻全体による実習発表会を行って、各人の実習体験について振り返ると共に、現場スタッフからの助言をいただく。臨床心理学専攻教員は、実習の巡回指導を行う。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(医学研究科臨床心理学専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		<p>(⑮ 中村 祐)</p> <p>事前指導において、施設実習の心得、実習施設の概要、心理援助者としての倫理や職務などを説明する。また、施設見学や講義等により、そこで働く医師や看護師、心理援助者の役割・機能、チーム医療におけるそれぞれの役割などについて説明する。医師の診療について、診察の陪席などを通して指導・助言する。日々の実習活動での指導、事前・事後指導、実習発表会を通して、精神神経科の医師の視点から指導・助言する。</p>	
	心理実践実習D (身体領域病院実習)	<p>この授業は、1年次の心理実践実習A,B(外部実習)を踏まえ、実習生が本学の附属病院もしくはその関連医療機関においてさらに心理実践実習を積むことにより、主に身体面を扱う診療科における心のケアの現状を学ぶとともに、診察陪席、カンファレンス等の見学・観察・支援の補助を中心とした実習を通して、臨床心理士及び公認心理師の活動や実情、心理的援助をする上での自分の課題などを学ぶことを目的とする。とくに生活習慣病や腫瘍性疾患など医療現場で頻度が高く心身両面にかかる疾患における心理的支援の実践や心理検査の有効な使い方、また医師や看護師をはじめとする多職種との連携の在り方など、臨床心理士及び公認心理師が身につけるべき知識を体験的に学ぶ。修士2年次に選択する科目とする。各診療科医師からの指導助言を受ける。</p> <p>学部で培った心理に関する支援の実態に対する基礎的な理解をもとに、医療における心理実践の現場で、心理に関する支援を要する者に対する支援(心理に関する支援を要する者の心理状態を観察、支援の補助)についての実習を行うことを目的とする。そこで、主として身体的もしくは心身にかかる疾患において、ストレスと疾病との関係、心理的支援を要する者等に関するニーズの把握及び支援計画の作成とチームアプローチ、多職種連携及び地域連携、公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解などについて修得する。</p> <p>(④ 竹森 元彦、⑤ 神原 憲治、⑥ 黒滝 直弘、⑪ 長谷 綾子)</p> <p>事前指導として、実習オリエンテーション、施設見学、現場スタッフによる講義等を実施する。日々の実習終了後、小グループで、その日の疑問や気づきに関連した指導を行い、実習生からの実習やケースについて質問、グループ・スーパーヴィジョンを受ける。実習が終了したら、実習全体を通しての振り返りである事後指導を行う。専攻全体による実習発表会を行って、各人の実習体験について振り返ると共に、現場スタッフからの助言をいただく。実習担当教員は、実習の巡回指導を行う。</p> <p>(⑩ 日下 隆、⑰ 辻 晃仁)</p> <p>事前指導において、施設実習の心得、実習施設の概要、心理援助者としての倫理や職務などを説明する。また、施設見学や講義等により、そこで働く医師や看護師、心理援助者の役割・機能、チーム医療におけるそれぞれの役割などについて説明する。医師の診療について、診察の陪席などを通して指導・助言する。日々の実習活動での指導、事前・事後指導、実習発表会を通して、各診療科の医師の視点から指導・助言する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(医学研究科臨床心理学専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究科目	課題研究（修士論文）	<p>課題研究に関する発表や討論をゼミナール形式で継続的に検討する。修士論文作成に向けて文献購読、発表、質疑応答等を行う。また、6月に、臨床心理学専攻全体で、中間発表会を開催して、その発表と討議を通して、それらをもとに、研究テーマの明確化・決定、研究方法の明確化・準備及び実施、結果の整理・分析、考察、修士論文の執筆を進めていく。学位論文審査で合格と認められた場合、学位論文公開発表会にて発表する。</p> <p>自らの研究課題を、ゼミナール形式で継続的に検討すると共に、臨床心理学専攻全体の場で、その成果を発表する。また、研究を行う場合の留意点、人権や倫理的問題について十分に配慮する。心理学・臨床心理学的研究法に基づき、各自の関心のあるテーマに沿って修士論文を完成する。国内の臨床心理学に関する研究動向と共に、諸外国の臨床心理学の先端の研究動向を参照して、国際的な研究にも目を向けて、研究を計画及び遂行・議論できる国際的な視野を修得する能力を身につける。</p> <p>① 林 智一) 高齢者に対する力動的個人心理療法、高齢者のライフレビュー、映画を題材とした臨床心理学的研究に関して、研究の実践・指導を行い、その研究テーマなどからの論文指導を行う。</p> <p>② 橋本 忠行) 治療的アセスメントに関する実践的研究、児童・青年と家族の心理療法、心理アセスメントの教育・訓練に関して、研究の実践・指導を行い、その研究テーマなどからの論文指導を行う。</p> <p>③ 山田 俊介) 不登校などの臨床心理学的理解と援助、エンカウンターグループを中心としたグループ・アプローチ、カウンセリングの教育・訓練に関して、研究の実践・指導を行い、その研究テーマなどからの論文指導を行う。</p> <p>④ 竹森 元彦) 児童期から青年期とその家族への心理療法、虐待などのトラウマのケア、当事者と家族・地域支援者同士のつながりのサポート、教育を生きた物語りから捉えた「ナラティブ・エデュケーション」やスクールカウンセリング、スーパーヴィジョンに関して、研究の実践・指導を行い、その研究テーマなどから論文指導を行う。</p> <p>⑤ 神原 憲治) 心身相関の臨床心理学と臨床医学への適用、心身医学の基本概念・心身相関・ストレスと疾患の関連性の機序、医療機関等での臨床応用、応用精神生理学などの心身相関を踏まえた治療的アプローチ、心身症や機能性疾患の病態、心身相関をベースにした治療法など、心身医学の立場から研究の実践・指導を行い、その研究テーマなどから論文指導を行う。</p> <p>⑥ 黒滝 直弘) 統合失調症・自閉症スペクトラム障害・パニック障害などの精神神経疾患の原因を解明と治療法の開発、高齢化社会におけるメンタルヘルスケア、認知症の合併症への対応法のエビデンスを構築、公認心理師の特に医療の中での役割、責任、経済効果の調査研究など、精神科医学の立場から研究の実践・指導を行い、その研究テーマなどから論文指導を行う。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(医学研究科臨床心理学専攻)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		<p>(⑦ 川人 潤子) 心理学の基礎的な理論や研究方法の理論や研究成果の応用可能性、個人の性格傾向や物事の考え方の抑うつやうつ病への影響に関する基礎的研究、抑うつを改善するための心理的介入プログラムの構築ならびに効果検証と心理的援助の方法など、研究の実践・指導を行い、その研究テーマから論文指導を行う。</p> <p>(⑧ 野口 修司) 様々な集団における人間の心理を対象とした基礎的および臨床的研究、家族療法やブリーフセラピーの理論と実践、大規模災害における被災自治体職員のメンタルヘルス支援に関して、研究の実践・指導を行い、その研究テーマなどから論文指導を行う。</p> <p>(⑨ 坂中 尚哉) 心理療法におけるナラティブアプローチの実践、心理療法における「反復される語り」に対するセラピストの関与に伴う展開過程、カンボジアをフィールドとしたインタビューやバウムテストによる文化比較に関する研究を行い、その研究テーマから論文指導を行う。</p> <p>(⑩ 谷渕 真也) 滞日外国人と地域住民の多文化共生、大学院生との共同によるボランティア活動の促進をテーマとするコミュニティ心理学的研究、機能分析心理療法（FAP）の理論と実践に関する臨床心理学的研究を行い、その研究テーマから論文指導を行う。</p>	